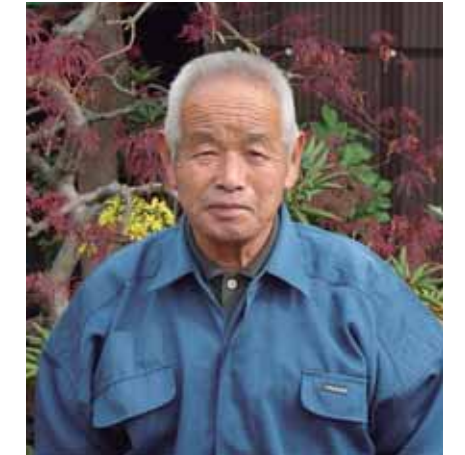




### 妻の支えがあつて今の自分がある



とび職人として市技能功労者に  
秋元 義雄さん・74歳  
文京町四丁目

とび職人としての功績が認められ、先月9日、市の技能功労者として表彰された。中学卒業と同時に父親が創業した「鳶秋元組」に。以来58年の間、とび一筋に生きてきた。「選ばれるなんて本当にうれいんです。表彰されたのは皆さんのおかげ。特に今までやってこられたのは、妻の支えがあったからこそと感謝しているんです」

一日も早く立派な職人になりたくて、父親から技術を一生懸命吸収した。しかし、27歳のとき、その父親が急逝。組を引き継ぐことに。「家族を養うため、また、とびの仕事が続けるため、自分が何とかしなければと必死で働きましたね。今思うと、苦しいことやつらいこともありましたが、これまで大きなけが

や病氣もなく、健康に過ごせて幸せだと思えますよ」

とび工業組合では相談役を務める。職業訓練指導員免許も取得し、後継者の育成にも力を入れている。「息子が跡を継いでくれたんです。三代続いてほっとしましたね。今は息子にすべて任せていますが、忙しいときは手伝ってもらいます」

現在74歳。豊富な経験で得た知識に、若手はかなわない。とびの服を着ている姿はまさに職人。唯一の趣味はカラオケだという。「歌っているときは幸せなんです。健康のバロメーターですね。いろいろと妻に苦勞も掛けてきたので、一緒に旅行にでも行って、ゆっくりと温泉に入り、夜はカラオケでもしたいですね」と、笑顔を見せた。

### 新しい時代の若い詩人表彰

若い芽のポエム贈呈式を11月10日、前橋テルサで開催。小学生・中学生・高校生の各部門入賞者へ高木市長が賞状を手渡しました。その後行われた朗読会では、子どもたちが作品を披露。みずみずしい感性でつづられた詩に、大きな拍手が送られました。



### 消費生活に関心高まる

グリーンドーム前橋で、11月11日、消費生活展を開催しました。計量や防災・防犯、農産物など、さまざまな体験コーナーやクイズがあり、どれも家族連れに大人気。日ごろの消費生活を楽しみながら見直し、関心を高めていました。

11月17日、市民文化会館で郷土芸能大会を開催。地域に伝わる芸能を広く紹介するために、昭和48年から行っています。清野町の野良犬獅子舞(写真)や立石の鳥追いなど6つを披露。抽選会も行われ、会場は熱気に包まれていました。



### 生産者と消費者が楽しく

農業まつりを11月10日、富田町のJA前橋市本所で行いました。雨にもかかわらず、新鮮な野菜や果物を買求める人で大にぎわい。試食コーナーでは会話が弾み、生産者と消費者の交流が深まりました。



### 各地に伝わる芸能を舞台で

### 若い芽のポエム

昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

#### ✦入選 人間と人間の命

宮城小4年  
小屋敷 真枝さん

自分は、人間だ。君も、人間だ。この地球には人間がいて、新しい命が生まれたり、死にいたる事もある。ある時は、戦争でたくさんの命がうばわれて行く。ある時は、やすらかに亡くなる時もある。ある時は、誰かに殺されてしまう時もある。ある時は、病気で亡くなる時もある。自分にも、誰にも、生死の勝手な選択のけんりはあるのだろうか？ それともないのだろうか？ 「やすらかに死んで行きたい。」と、願うだろうが自分は選ばない。人間と人間の命とは、不思議なものだ。

人間はいつ、生きてると実感できるのだろうか。死んで行く時、恐怖心はあるのだろうか。自分達は何のために生きるのか、死ぬのか。考えてみるが、答えは見つからなかった。自分が今している事は、くだらないのか、そうでないのか。そもそも、人間は誰に作り出されたのだろうか。こういう事を考えた人は、自分の前に百人でも、千人でもいるだろう。その中に答えが見つかった、人間はいたのだろうか。

人間が生きる事は、同時に死に、向かっている事でもある。自分が今、生きているのは、いったい誰のおかげであろうか。毎日、毎日、答えを探す。

#### ✦入選 木

若宮小6年  
前原 史香さん

木はがまん強い。暑い日には、たくさん着ていて。木はがまん強い。寒い日には、はだかで立っ